

## 「自主防犯活動団体の集い」講演会

平成 18 年 12 月 3 日

(司会者)

皆様、本日はお集まりいただきありがとうございます。ただいまより自主防犯活動団体の集いを開催いたします。それでは開会にあたりまして主催者より、ご挨拶申し上げます。はじめに三重県知事、野呂昭彦よりごあいさつ申し上げます。

(野呂知事)

一言ご挨拶申し上げます。まず、今日は自主防犯活動団体の集いということでご案内をさせていただきました。皆様にはこのように大勢お集まりをいただいております、心から御礼を申し上げます。それから拝見いたしましても地域で様々な活動を通して、県政推進にご理解ご協力をいただいております。そのことにも高い所からではございますが、心から厚く御礼を申し上げます。

まず、三重県の犯罪状況でございますけれども、平成 14 年が三重県での刑法犯の認知件数ではピークでございます、47,600 件ほどあったわけでございます。それが幸いその後は非常に減ってきておりました、3 ヶ年減ってきた中で平成 17 年には約 3 割減ってまいりました。今年の状況もこの 10 月末現在で昨年よりまだ 18% 減少しているということでございますので、多分 14 年のピークから比べると半分とまではいかなくとも、かなり減少気味にあるということでございます。知事になりましたときに平成 14 年の数字がちょうど出てきたところでございました。これは大変だということで警察官の増員には以前から力を入れておりましたが、もっと増やしてもらわなければいけないということで、先頭に立って国の方にも定員の増をお願いしてきて、毎年増員してきているところでございます。そのようなこともありまして減少してきているということも言えるのではないかと思います、あわせて実は県内のいろいろな所で防犯組織が立ち上がり、そしてその皆様が非常に熱心にご活躍をいただいておりますということも一方ではあるのではないかと考えております。

さて、社会が非常に経済的に豊かになり、そして成熟化してくるという中で私達の社会は今、人口減少社会に入ってきているところでございます。そのような中で私はこれからの社会のあり様というのは、自分達の一番近いところの課題については、やはり一番近いところにいらっしゃる皆様ができることをしっかりやっていただく、そして行政等との連

携を行っていくということが非常に大事なことではないかと思っております。多分今後の社会の中ではそういった皆様と『公』に関することも協働でいろいろ行っていく、その中でこだわりの自分達の生き方や、あるいは自分達の愛着の持てるこだわりのあるまちというものを、自分達の手作りという気持ちを込めて行っていくのではないかということが言えるのではないかと思います。それで三重県では『新しい時代の公』という多様な主体が協同で『公』を担っていくという取組を行っているわけでございます。

それからもうひとつ、三重県がこれから将来に向かって行っていかなければならないと思っておりますが、私達の生き方そのものに着目をした取組でございます。三重県では広い意味での『文化』という使い方をしているわけですが、やはり私達の生き方そのものを高めていくということです。今、社会で様々な歪みが起こってきております。豊かになったのにますます社会の歪み、子どもを巻き込んだような悲惨な事件などいろいろなことが起こっております。例えば子どもの問題でも、健全な子どもを育成するためには、教育がもっと責任を持つべきなのか、それとも家庭の問題なのかといったような議論がございます。しかし実は学校にしる、あるいは家庭にしる、それだけで決まるものではありません。もっと多くの影響を社会全体からマスコミを通して、あるいはインターネット等を通して子ども達に影響を及ぼしているわけでありまして。そういったことを考えると、例えば子どもの問題ひとつをとりますと、やはり究極は私達が私達の社会そのものの体質を変えていかなければ、社会の健康さを取り戻していかなければだめなのではないかということです。そのような意味では今まで少なくとも国や行政が行う政策というものとはどちらかと言いますと、モノサシがいつもお金で計算される経済的なモノサシ、あるいは効率的なモノサシといったものばかりで見ることが強かったわけでありまして。しかしもっと全般の生活、私達の生き方、暮らしぶりといったところにモノサシをあてて政策全体を見直していくべきではないかということで、三重県では『文化力』というものを政策のベースに考え方を付け加えていこうと、見直しを行っているところでございます。そのようなことが私ども行政も中にあるわけでございますけれども、やはり大事なことは私達の一番身近なところで皆様とどうあるべきなのか、そして今、安全安心ということでは犯罪が減ってきているとは言いませても、私達が感じている安全安心な社会ということには程遠い、まだまだ不安というものが拭えないような状況にあるわけでございます。警察まかせとか行政まかせではなく、自分達のまちは自分達で守るのだと、自分達の命もまず自分達で努力して安全を確保していくのだという姿勢が非常に大事なのではないかと思っております。

そのような意味で今日お集まりいただいた皆様はそれぞれの地域において、自発的にそのような自主防犯活動を行っていただいている方々でありますし、あるいはまたそういったことに非常に興味を持っていただいている方々にお集まりをいただいているということでございます。県といたしましてもこれからそういった活動がますます地域でしっかり取り組まれていくように期待もいたしておりますし、そしてまたそのように活動していらっしゃる皆様ももっと横の連絡も持ちながら、ネットワークもつくっていくということが非常に大事ではないかと思っております。私ども行政としましてはそういった地域で自主的に活動していらっしゃる皆様は我々の大事なパートナーであると思っております。そういった皆様と今後もしっかり連携しながら取り組んでまいりたいと思っております。今日のこの集いもそういった意味で、今後に対する大きな効果を期待させていただいております。今日はこの後、NPO 法人の日本ガーディアン・エンジェルスの小田啓二さんにお出でをいただいております。先ほど私も控え室で少しお目にかかりました。大変しっかりした活動をニューヨーク等も行っている様子で、今は日本でそういった活動を広げているということですので、大変参考になるのではないかと思います。また講演会の後、NPO の皆様の協力を得まして、ワークショップ形式での意見交換というものが行われるということでございます。どうぞ皆様方にとりまして有益なものでありますことを心から期待し、ご協力をお願いし、ごあいさつとさせていただきます。どうぞ今後とも皆様のご活躍お祈りいたします。ありがとうございました。

(司会者)

続きまして三重県警察本部長、大庭靖彦よりご挨拶申し上げます。

(大庭本部長)

県警本部長をしております大庭でございます。本日は自主防犯活動団体の集いに、このようにたくさんの方にお集まりいただきまして開催されるわけでございますけれども、先立ちまして一言ごあいさつを申し上げたいと思います。まずもって皆様方には平素、私どもの警察行政各般にわたりまして深いご理解ご協力を賜っておりますことに対しまして、高い席からではございますが厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございます。

さて、犯罪情勢についてざっと概括してみます。全国では先ほど知事からもご説明がありましたように、刑法犯認知件数と言いますのは平成 14 年に戦後最悪を記録しまして 285

万件の認知件数であったわけでありまして、これをピークに減少に転じておりまして、17年には227万件ということで20%の減となっております。また本県につきましても同様でございます、平成14年の47,000件余りをピークに17年には34,000件ということで約28%の減少となっております。10月末においては、24,000件ということで前年比約5,000件、18%の減少ということでありまして、犯罪の減少傾向は定着化を示しているのではないかと思います。しかしながら他方で全国的には昨年11月広島県、栃木県で女子児童が殺害された事件がありました。今年に入ってから神奈川県や秋田県などで子どもが被害にあうという、大変痛ましい事件が発生しており、国民の皆様方にも非常に不安を与えているところでございます。当県では幸いなことに、このような子どもが直接被害にあう凶悪な事件の発生は見ておりません。しかしながら子供に対する声かけ事案につきましては、本年10月末現在で私どもが把握している範囲では164件となっており、依然として高い数字を示しているところでございます。子どもを狙った犯罪の発生が本当に危惧されるところでございます。このような情勢の中で県内各地におきまして、自らの地域の安全は自らで守ろうという機運が高まりを見せており、県内で自主防犯活動に取り組んでいただいている団体につきましては10月末現在で260団体を数え、この2年半で2.8倍と大幅な増加を見ているところでございます。また県当局をはじめ、関係機関団体による自主防犯活動に対する支援も充実しつつありまして、活動の輪の広がりが本当に期待されるところでございます。本日お集まりの皆様方におかれましては、これらの自主防犯活動のリーダーとして地域住民の方々を牽引し、犯罪の予防や子どもの安全を守る活動など地域の安全安心を守る活動に貢献していただいているところでございます。先ほど犯罪件数の減少について申し上げましたけれども、皆様方のこのような活動が犯罪の減少に結びついているのではないかとこのように思っております。改めて敬意と謝意を表したいと思っております。私ども警察といたしましても、皆様方と協力いたしまして様々な活動を行っているところでございます。パトロール活動の強化等々、県民の皆様方の身近なところで発生いたします不安感の高い街頭犯罪等の抑止対策を推進いたしますとともに、犯罪情勢をはじめとする様々な情報の提供といったことで、皆様方の自主防犯活動に対するご支援をさせていただいているところでございます。今後これを充実し、皆様方との連携を一層深めまして、自主防犯活動の盛り上がりにも少しでも力を提供できればと思っております。犯罪のない安心して暮らせる社会は県民全ての願いであります。そのためには本日お集まりの自主防犯団体をはじめといたしまして、県民の皆様方と自治体、学校の関係者さらに

は私ども警察が手を携えてこそ、本当の意味での安全で安心なまちづくりができるものと考えております。どうか今後とも、無理のないかたちで、誰でもが気軽に参加できるかたちで、しかしながら息の長い活動を続けていただきたいと考えております。終わりにになりましたけれども、本日ご参加いただきました皆様方のご活躍とご健勝、それからこの会の成功を心より祈念いたしまして、簡単ではございますが私のあいさつにかえさせていただきます。本日はどうもご苦労さまです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

(司会者)

続きまして三重県教育長、安田敏春が出席させていただいておりますが、ご紹介のみとさせていただきます。

(司会者)

それでは講演会に移らせていただきます。本日の講演は「地域ぐるみで取り組む防犯のまちづくり」と題しまして、特定非営利活動法人、日本ガーディアン・エンジェルズ理事長、小田啓二様にご講演いただきます。

小田様は 1990 年にアメリカの大学在学中にニューヨークで地下鉄パトロールなどの犯罪防止活動を行っていたガーディアン・エンジェルズの活動に参加されました。そして 1992 年にはガーディアン・エンジェルズのニューヨーク本部長に就任されました。1995 年には日本にガーディアン・エンジェルズの活動を広めるため帰国され、日本ガーディアン・エンジェルズの前身である、ガーディアン・エンジェルズ東京支部を設立されました。その後、ガーディアン・エンジェルズの活動は東京だけにとどまらず日本各地に広がり、現在では北海道から九州まで多くの支部を持つ犯罪防止 NPO として地域に密着した活動を行ってみえ、今年 10 月には「平成 18 年安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」を受けられております。それでは小田様、よろしく願いいたします。

(小田啓二氏)

三重県の皆様こんにちは。ご紹介をあずかりました、日本ガーディアン・エンジェルズの小田啓二と申します。今日は貴重な機会にお招きをいただきましてどうもありがとうございます。私ども日本ガーディアン・エンジェルズは、防犯活動をする NPO として平成 7 年から活動をしております。本日は県内でたいへんに盛り上がっている自主防犯活動、昼間のパトロール、夜間のパトロールあるいは子どもを見守るための運動、あるいは青色回転灯を点けての住宅街のパトロールなど多岐に渡る活動をなさっている皆様方に、私ど

もの活動の一端を紹介させていただきまして、ひとつでもふたつでも参考にさせていただければと思っております。ある意味で応援に駆けつけたと思っていただければ幸いです。冒頭に同行したボランティアの仲間を紹介させていただきます。まず皆様から向かって左にありますが、私ども日本ガーディアン・エンジェルスの記事の大和田ナオコと言います。よろしくお願ひします。ガーディアン・エンジェルスでは活動を長く続ける工夫のひとつとして、ボランティアメンバー同士がニックネームで呼び合う習慣があります。ちなみに大和田はガーディアン・エンジェルスではダイアナと呼ばれております。おそらく皆様も、ニックネームを聞けばしばらくの間は名前を覚えておいていただけたと思ひます。隣におりますのは東京の池袋で活動をしておりまして、実は彼の出身はご当地であります三重県亀山市の関町、今日は会場にこの地域の方がお越しであると聞いておりますが、彼はここの生まれ育ちで東京にて活躍をしてくれております。今日はこちらに駆けつけてくれました、能美と言ひます。どうぞよろしくお願ひします。彼のニックネームはライクと言ひます。続きまして彼女は渋谷で活動をしておりまして、結婚をしまして岐阜県の可児市に住んでおりまして、今日こうした機会をいただいたので駆けつけてくれました。保坂と言ひますが、ガーディアン・エンジェルスではカスミと呼ばれております。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは早速本題に入りたいと思ひます。今日私は、皆様が長く活発に活動を続けていただけるように、少しでもお役に立てればと思っております。まずひとつに何故このような活動を行なっているのか、私がガーディアン・エンジェルスの防犯ボランティアに伝えていることを3つ冒頭に紹介させていただきます。3つというのは難しいことではなくて、確認をすることでございます。

今日配布されている資料は、先月全国各地から自主防犯活動をする団体をお招きして東京の新宿で開催した時に配布したレジメでございます。パトロール活動をするうえでの様々な秘訣が書かれております。今日こうした貴重な場にお招きいただいて皆様がこのように頑張っていらっしゃると聞いたものですから、参考までにお持ちいたしました。ぜひお時間のある時に見ていただいて、パトロールのノウハウとか、あるいはこのようにやったら良いでしょうという少しのヒントが書いてございますので、参考にさせていただきたいと思ひます。防犯活動でどのように気を配ったらよいのか、これから三重の皆様には3つお伝えいたします。

まずそのひとつ目です。先ほどからの皆様のごあいさつにありましたが、自分のまちは

自分で守るという自覚を強く持つということでもあります。自分で守るんだという意識を高く持つことです。この活動を続けておられますと、自分自身がやるという行動力が非常に大切になってきます。したがって1点目は、自分のまちは自分で守るという自覚を強く持つということです。

2点目です。情報を共有するために多くの関係機関や団体と連携をするということです。すなわち自分達だけで行っていた場合、自己満足と言われたり、勝手にやっていると誤解される場合があります。自分達の行っている内容を共有する、あるいは今の地域の状況を把握するためにも多くの関係機関からの情報を取り寄せるということです。地域社会には警察や消防、行政あるいは自治会、様々な奉仕団体がたくさんございます。他の機関としっかり連携をすることは非常に大切だと思います。

3点目です。今日の結論のひとつであります、気づいたら動こうということです。私達を含め普通の人は何かを見たとしても見て見ぬふりをしてしまったり、聞こえても聞こえないふりをしてしまったり、誰かがやるであろうとか、あるいはまあいいかなど、ためらってしまう場合があります。したがって自分にできることはひとつひとつやっつけていこうではないかという考え方が3つ目です。以上の3つを深くと言いますか、追求していくためにパトロール活動があると思います。

ここで私は全国各地の成功例をいくつか紹介したいと思います。考え方としてさらに2つに分けていただきたいと思います。ガーディアン・エンジェルズが推し進めるやり方が2つあると思っていただければと思います。そのひとつは、皆様が今日お集まりのように、自分達の地域で地域の総力をあげて防犯運動をするという方法と、もうひとつは後ほど説明をいたしますが、個人の意識を高める方法で犯罪を減らしていく、あるいは安心して生活をするために自分自身で関わっていこうという考え方です。『地域力』と『個人力』という考え方を2つに分けてぜひお聞きいただきたいと思います。『地域力』というのは、わが国日本では先般9月末、警察庁の発表によると26,000団体、これだけ防犯活動をする団体があるということで、ここ三重県においても約260の団体が皆様のよう活動し、活躍されていると聞いております。たいへんな盛り上がりを見せております。これから紹介する例もそうですが、NHKにもありました「ご近所の底力」など、いろいろな所での成功例を参考にして、自分のまちを守ろうという意識が高まってきているのだと思います。2つめの『個人力』というのは、自分で自分を守ろうとする防犯力ですが、日本は先進国で最低水準だと言われております。今まで安全安心はプロ機関の優れた体制に頼りすぎて、

自分たちにできることはあまりないだろうと考えていたわけであります。今までは何もしなくても比較的安心して暮らしていけましたが、最近ではそのような状況でなくなったのです。子どもから老人まで自分にできる防犯力を身に付けて、自分を守る工夫をする必要があります。

まず『地域力』でございます。子どもが巻き込まれる犯罪が随分多くなってきました。カスミとライクが持っているポスターを見ていただきたいと思います。このポスターには数字の8と3が書いてありますね。最初にこれをもらったときにあるメンバーが、ヤーサン運動ですかと言って笑われてしまったのですが、これはハチサン運動と呼ばれている運動であります。この運動を聞いたことのある方はいらっしゃいますか。東京の品川区ではじまった『おやじの会』、親父たちがつくる会が全国で推進している運動です。どのような運動だと思われませんか。こうだろうと思われる方はいらっしゃいますか。はい、ありがとうございます。お父さん、今、大正解でした。登下校の子どもを見守る運動です。8時といえば登校の時間。3時といえば、お母さん、何の時間ですか。(下校の時間です。)真面目に答えていただきました。私がこのように質問しますと大体の人が、おやつの時間ですと答えます。なぜかほとんどの人は、3時はおやつの時間だと認識しておりますからそれを利用して、3時といえば子どもが下校する時間でもありその時間には子どもを気にしましょうということ。できるだけ大人達が子ども達を一人にさせない、あるいは一人であつたら気を配ろう、見守ろうという運動であります。私、この間この話を熊本でしました。そうしますと30代のPTAをされているお母さんが、私は3時頃にはパートで働いていますので、外に出てパトロールは無理です、とおっしゃいました。これは誤解のないように言いますけれども、8時や3時の時間に子どもに対して心や気を配ろうということです。もちろん、おもてに出てパトロールできるのであればそれにこしたことはありません。しかしカーテン越しに外を見るなどちょっと目を配る、耳を配ると言いますか、耳を傾けるのです。あるいは、熊本の時もそうだったのですけれども、その方はパートでお仕事をされていて、もう子育てを卒業された方々が地域にたくさんいらっしゃるはずなのです。実際にその会場で、8時や3時にお手伝いをしたいと思われる方はいらっしゃいますかと聞いてみましたら多くの手があがったのです。リタイヤされている方々を筆頭にです。したがって何が言いたいのかと言いますと、こういった時間帯に子ども達が登下校するという関心を多くの住民が持つ運動だと思っていただきたいと思います。

次は、ステッカーやマグネットの運動です。私が手に持っておりますのは東京都の石原



知事が発案したもので、歌舞伎のお面をあしらってあります。都内を走る事業車やバスなど様々な車に貼られております。犯罪は見逃さないと、このようなステッカーの運動を警視庁や東京都あるいは事業所で行っております。昨年とても残念なことに広島で子どもの事件がありました。広島では、地域まるごと子供見守り宣言を始めて、マグネットをいろいろな車に貼ったりしています。これがそのマグネットでございます。

ライクが持っているのは北海道の例です。これはコカコーラの自動販売機や車に貼っています。あるいはこれは全国の駅で展開されている、子供達に人気のある機関車トーマスをあしらった子供 110 番の駅、これもステッカーの例でございます。

ステッカーやマグネットを貼るのは目に見える運動であります。しかし同時に、このプロセスが非常に大切なのです。こうした運動と一緒にやりましょうと、先ほど 2 番目に申し上げました通り、多くの機関と連携をするということです。地域の中には、既に子ども 110 番の家があったり、防犯連絡所などがあったりします。しかし行政で行う子ども 110 番の家と警察で行う子ども 110 番の家との連携がない場合もあります。提案したいのは、ステッカーやマグネットを統一しなければならないのではなく、貼ってある場所を住民が十分に把握し挨拶するなど親しくしていただきたいのです。最近では子どもの事件をよく聞くので、万が一何かあった場合には守ってあげてくださいという一言が大切になります。ですから新しいものに替えようということではなくて、ステッカーやマグネット、看板は、地域の皆様とコミュニケーションをとるツールであると思っただきたいと思います。

今、地域でできることというお話を差し上げたところでございますが、『地域力』でいくつかの例がございます。

私が今持っているのは千葉県の市川市という所で犯罪が実際に起きた、ひったくりと空き巣が起きた場所の地図でございます。なぜこの地図を持ってきたかと言いますと、皆様ここ三重県警のホームページで、犯罪発生マップというのを見たことがある方はこの中にいらっしゃいますか。15人、20人くらいでしょうか。残念ながらホームページあるいはインターネットは、なかなか見ないのが実態なのです。そこでこのような地図にして町内に貼り出したのです。最初は苦情がありました。私のまちが危ないまちだと思われてしまうのではないかと、住民が心配したのです。しかし今ではかなり犯罪が減っているのです。なぜ減ったかと言いますと、先ほども言いましたキーワード、見える運動だからでした。地図を見ながら住民が危機意識を高めたのです。私の家の近くだ。ひったくりや空き巣には気をつけようと思いました。そして泥棒にも、犯罪を止めさせる効果がありました。警

察の取り締まりが強化されているかもしれない、あるいは皆様のような方々がパトロールされているかもしれないと、犯罪をあきらめるのが当然だと思います。したがってこのように見えるかたちで地図を貼り出して、ひたたくりと空き巣狙いの犯罪を減少させることに成功例をご紹介しました。

次に、これは私がこの間もらってきた防犯対策のチラシです。自転車盗に気をつけましょうとか車上狙いの犯罪に気をつけましょう、空き巣ねらい、あるいは今話題の振り込め詐欺に気をつけましょうと対策のポイントが書いてあるチラシです。佐賀県で頂いてきたのですが、これはどこに置かれていたと思われませんか。どなたかわかりますか。皆様の身近な場所で私はこれを見つけてきたのです。スーパーですか。惜しいですね。コンビニ。惜しいですね。パチンコ。そうですね、お父さんはパチンコ屋が身近な場所なのですね。もうひとひねりです。それでは答えを言います。私はファミリーレストランのメニューと一緒に置かれてあったのを見つけました。どうして頂いてきたのかと言いますと、きっと三重県でも同じでしょうが、まだまだ無関心な人達がたくさんいるのです。PTA活動にも出ない、あるいは防犯活動にも関心を示さない市民がたくさんいるのです。そういった人達と接点のある場所は郵便局であったり、コンビニエンスストアであったり、あるいはファミリーレストランであることに着目して、このような方法もあるのだと私は感心しました。さっそく店長さんをお願いしてもらってきました。ここでのポイントは、関心のある人達だけが動いてもしょうがないということです。先ほど言いました他機関との連携というのはそういうことなのです。できるだけ無関心な人達を巻き込むためにアイデアを出し合いやる気にさせるといふ、これも防犯活動のもうひとつのあり方だろうと思っております。

他にいくつもありますけれども、例えばこれはガーディアン・エンジェルズが試験的につくったランドセルカバーです。子ども達は黄色いランドセルカバーをランドセルに付けます。交通安全のランドセルカバーは小学校1年生、あるいは2年生が付けます。1年生の児童は黄色いランドセルカバーを付けているから、狙われやすいと知り、サンプルでこのようなものをつくりました。これは教育委員会と学校が交通安全のために保険をかけていますので、勝手に替えるわけにはいきません。時々この試作品を教育委員会や学校にお見せして、黄色でも緑でもピンクでも良いではないですかということをお願いして、ひとつのアイデアとしてお示しできるようにつくったものでございます。

もうひとつのアイデアです。これは東京都の世田谷区でもらってきました。小さなステ

ッカーには『防犯ブザー携帯中』と書かれています。全児童のランドセルの後ろ、あるいは横にこういった蛍光色のステッカーを貼るわけです。世田谷では子どもが狙われる犯罪が多発しました。そこでステッカーを配り、みんなが付けることにより不審者が少なくなりました。以上のようにいくつかの例を紹介しましたが、いろいろな例がございます。見える活動をするということです。

もう一度キーワードを整理いたしますと、見える活動とは肌で感じる活動であります。効果をより上げるには誰にでも見えるかたちで活動を推し進めることがひとつです。もうひとつはできるだけ無関心層にも呼びかけ、巻き込める工夫をすることです。以上が先ほどからお話してきました『地域力』、地域の総力で地域安全運動を推し進めましょうという考え方であります。

個人の考え方に移る前に、今日お集まりの皆様は既に地域で様々な活動を実施、実践されていますので、それをより効果的にするためにまた3つのことについてお話をいたします。それはガーディアン・エンジェルスのメンバーが大切にしていることでございます。パトロール活動や、あるいは生活をするうえで大切にしていることです。

まずは目の力を活かそうということです。後ほど皆様にビデオをお見せするのですが、パトロールでも普段の生活でも、多くのことが目に入ってきます。しかし目に映るだけで終わってしまうのが普通です。何をここで言いたいのかと言いますと、例えば目の前にゴミが落ちていたとします。あっと気づきます。でも、どうせお掃除する人が捨てるだろうと思ってしまいます。皆様、どうでしょうか。例えば、自分の自転車のカゴにこのようなゴミが捨てられたらどうしますか。自分が持って帰り捨てるのではないのでしょうか。この間この話をしましたら、隣の自転車のカゴに移すという人がいました。ポイントはここなのです。実は、非行や犯罪と一緒になのです。ゴミを自分で拾って自分の家に持ち帰ったり、近くのコンビニのゴミ箱へ入れたりとすることで、このゴミの問題がここで絶てるのです。ということは目で見て気づいた時に、自分にできることを実践しようということです。あそこのコンビニに少年のグループがいるぞ、あそこで人だかりができているぞ、何だろうと目に入ったら、あそこで何ができるのかということを考えていただきたいと思います。では、目の力をつける練習をしたいと思います。ダイアナ、どなたかにご協力をお願いしてください。目の力はこれ程あるのだと体験していただきたいと思います。どうぞ、お名前いただけますか。

(ナガオカ氏)

ナガオカです。

(小田啓二氏)

ナガオカさんですね。皆様、ナガオカさんを15秒ほど見つめてください。見つめ終わりましたか。ナガオカさんの印象を焼き付けてくださいね。はい、それではナガオカさん、しばらくホワイトボードの後ろに隠れてください。今、私はルールを説明せずに失礼いたしましたけれども、実はここにいたナガオカさんをどのくらい観察できたかをお聞きしてみたいと思います。どのような方だったでしょうか。どなたでも結構です。男性であった。一番わかりやすいですね。そのようにどなたでも結構です。身長が160センチくらい。とてもハイレベルです。他にございますか。白髪まじりの面長、詳しく見ていらっしゃいましたね。他はございますか。65歳から70歳。あの15秒でよくわかりましたね。他にございますか。チェックのシャツを着ていた。そうですか。女性はファッションに目をいくのですね。はい、その前のお父さんどうぞ。革靴を履いてスタイルの良い方だ。すばらしい。ではこのくらいにしましょうか。すみません、ナガオカさん。もう一度前へ出てきていただけますでしょうか。今いろいろなことをお聞きしました。皆様もほとんど当たっていると思いますが、ポイントはここではないのです。先ほど見ていた目と今見ている目と、力の入り方が違うと思いませんか。今ナガオカさんを見られて自分の回答が当たっているか、上から下まで確認しながら見ていると思います。そこなのです。この違いなのです。この違いは何の違いでしょうか。今、皆様はナガオカさんに強い関心を持って見ているのです。この目の力の違いを普段から地域で実践したらどうでしょうかとお子様から老人に至るまでいつもお話ししています。関心を持ってまちやものを見る、人を見る、車を見る、こうすれば自分の行動が変わります。先ほどお答えいただいたことは全て当たっておりますね。そうですか。65歳から70歳ですか。そうですか。大正解でございました。全てピンポンです。それでは皆様、ナガオカさんに拍手をお願いします。ありがとうございました。私が言いたかったのはこの観察力なのです。よく見るということです。子どもにはよく言うのですが、よく見るとは正確に観察することです。学校の校門を出た時に車が停まっていたら良い車か悪い車かはわかりませんが急発進するかしれませんし、急にドアが開いてぶつかるかもしれませんから、できるだけ反対側の歩道を歩きましょう。あるいはガードレールの内側を歩きましょう。これは子どもが自分で考えられることです。あるいは、あそこの駐車場に少年達が6,7人集まっているぞ、それではそこまで行ってパトロールがてら挨拶をしてこようかというように行動に繋がれば良いのです。したがって目の力は、パト

ロールでは7割から8割くらい、重要な要素だと思っておりますし、同時に皆様がパトロールに出していない普段の生活の中でも様子が違う場面に気づけば安全のためには役に立つと思うのです。ぜひ関心を持っていただいて、いつもと違うと感じたときに、何か動くことができることがあるのなら、10回のうち5回のうち1回でも行動してみてください。ひとつだけ注意点があります。相手を疑う目ではいけないのです。あの人少し怪しいぞとか、あの車は怪しいぞという目ではなくて、普段と違う様子を自分の目で追いかけるということです。今日の資料の中に私はスキャンという言葉を入れています。スキャンと言いますと、最近ではコンピューターの付属品としてジーツと読み込む機械がありますが、この場合のスキャンは、ラジオのチューニングというものを思い浮かべてください。ラジオでボタンをピツと押しますとチャンネルが自動的に動き始めます。チャンネルの電波を拾ったら動きがピタと止まります。その感覚なのです。普段の生活やパトロール最中にチューニングしていると考えてください。スキャンしてピタ、あそこにカメラを持ったおじさんがいる、あそこにこっちを見ているお父さんがいる、このように見えた時に自分が何かするべきか。この考え方を女性あるいは子どもあるいはパトロールをする私達が持ち続けられれば、おのずとできることについて自分で答えを出すことができます。まず今、目の力を試しました。非常に大切だと言いました。

次に大切なのは耳の力です。皆様今ダイアナが後ろで出したこの音は何の音でしょうか。笛の音ですね。それではこの音は何でしょうか。防犯ブザーの音です。これは後でお話しする個人の防犯力にも通じますが、耳で感じたら動くという考え方です。子ども達の登下校の時間帯とか、あるいは生活していると耳の力は大いに利用できるのです。後ほど詳しくやりますが、歩いているときに後ろから足音が聞こえた場合、振り返れば自分自身を守ることができるのです。このように音を自分の耳で察知するようにします。しかし幹線道路であったり、繁華街であったり騒音の激しい場所では耳の力を活かすということは容易なことではありません。音を聞き分けるのは難しいとしても、交通事故の衝撃音、いつもと違う音は気にしていれば聞こえてくるものです。パトロールをしている最中、普段生活をしている中で、耳の力を活かしておりますと、いつもと違う音を聞いて行動ができるのではないかと思います。

それではこれも大切な3点目の要素を述べさせていただきます。それは口の力、声を出す力、すなわちガーディアン・エンジェルズが最も大切にしていることなのですが、相手とコミュニケーションを図るということです。皆様パトロールなどで外に出られて地域

の方とあいさつを良くかわされますという方が大勢いらっしゃると思いますがあいさつは大切なことです。ここで警視庁から発表された都市防犯研究センターのデータで、空き巣狙いの犯人から集めたアンケートによると、空き巣に入るのを止めた理由は、答えた泥棒100人は、捕まった後に警察にアンケート調査をさせられたそうですが、一番多かった回答は、人に声をかけられたのでやめましたと言っているのです。2位の34%は補助錠があった、つまりドアに鍵を2つつけている家だったそうです。声をかけられる地域では犯罪を止めると63%の犯人が言っています。ということで、声の力を活かしましょう。もうひとつ、あいさつだけではなく声かけもしっかりやります。声かけです。ここで留意いただきたいのは、声かけイコール注意をすることではありません。ガーディアン・エンジェルスに入りますといういろいろな職業のボランティアが集まってきます。皆、奉仕の気持ちを持ち、正義感を持ち社会に貢献したいと参加するわけですが、実際に活動を始めると秩序を破っている人、ゴミを散らかしている人、深夜徘徊している少年たち、信号は無視する、自転車は2人乗りをする、未成年者が喫煙する様子を頻繁に見かけます。そうしますとついやめろよ！とかダメじゃないか！と言いたくなります。かつてはそのように言える頑固親父がいて、そのような方が皆様の中にもいらっしゃるかもしれませんが、私達がこのような格好で自分と同じような世代の若者を相手に、なかなか言いづらい面があります。私達の声かけとはコミュニケーションを図ることです。すなわちまちにいる人と会話のキャッチボールを楽しむことなのです。ボールを投げます。(はい、こんにちは。)このような感じです。このように想像していただきたいのです。補導員や、あるいは警察官のように職務として、またお役のある方は別ですが、一般の市民ボランティアとして、「ちょっと、きみどこから来たの?!」「あなた何歳!」と声をかけたら嫌がられるのは想像の通りです。第一声はキャッチボールする気持で、最初はあいさつして次にしっかりコミュニケーションを図ります。資料の中にコミュニケーションの方法が書いてございますが、あいさつから入り、自分達の素性を明らかにしましょう。ガーディアン・エンジェルスであれば「ガーディアン・エンジェルスです。今、防犯パトロールをしています。」というように、何をする団体なのか、今どんなことをしているのかと説明しましょう。そうすれば相手に安心感を与え、急に声をかけてきて何なんだと不安にさせなくて済みます。まず挨拶をし、そして「防犯活動中です。」あるいは「町会と合同パトロール中です。」というように名乗りましょう。そしてもうひとつ、相手と視線を合わせます。視線を合わせるために小学校の児童であれば片膝をつけば同じ視線になります。後ほどビデオでお見せしますが

も、お年寄りのおじいちゃんが出て私どものメンバーがこのようにしゃがんでいます。相手にとって同じ目線というのは非常に話しやすいのです。もう少し説明するならば、相手と同じ土俵に上がり話しをする、お互いが同じ立場で話しをする、偉いとか偉くないとか、よくありがちですが深夜徘徊している少年達を自分たちと区別しているように話す方がいいです。そうではなくてどのような人であっても自分を低姿勢に置き同じ目線で話をする、しゃがんで話をするのであればそれもオッケーです。ガーディアン・エンジェルスには、暴走族といった不良達が寄ってきます。長く続けているといつの間にか寄ってきてくれるのです。それはやはり同じ目線で話を聞くというスタンスを相手に伝えているからでしょう。もちろん、私達からも未成年の喫煙でなどのルール違反があればいけないと伝えて本人に考えさせなくてはなりません。一方的に押し付けてしまったのでは口うるさい人に注意されたと思えなく、いなくなったらペロッと舌を出してまた同じことを繰り返します。ですからそこで考えてもらうことが大切であります。いろいろな工夫がありますが、声かけをする時もこのように座っている少年達がいれば、こんにちは！といきなり正面から行ったらびっくりされてしまいます。後ほど見ていただくとわかるのですが、あいさつをする時は横の方から声をかけてみる、あるいは挨拶する相手により違いますが、いきなり小学生の子どもに「こんにちは」、「おはようございます」と大声をあげてびっくりさせているにも関わらず、「返事がないじゃないの、どうしたの」と言ってしまう場合もありがちです。いくら無視をされたとしてもあきらめないでください。あせらないで、何か月も継続して行ってください。私の経験ではガーディアン・エンジェルスで、あいさつをし続けて返事が返ってこない地域はありませんでした。最初のうちは返事がなくても、続けていくうちに必ずあいさつが返ってきます。住宅やエレベーターの中でも最初のうちは「何だろう、この人は」と変な顔で見られたりもします。でもずっと続けていけば返ってくるものです。ですから、あきらめないでというのはその日のうちにゴリ押しをしないで、長く継続をしていただきたいと思います。声のトーンにも注意をしていただいて、しっかりしたコミュニケーションをとることが大切だと思います。本当は、「あなたは何歳？」「どこから来たの？」「親の名前は？」と聞きたいところを「ここまでどうやって来たの？」と言いかえればバスで来た、自転車で来た、オートバイで来た、歩いて来たなどいろいろな答えが返ってきます。このように少し遠回りですが相手が答えやすいように聞くと良いでしょう。会話のキャッチボールは直球でなくても良いのです。「どうやって来たの？」と聞けば、

(ダイアナ)

「今日は歩いて来たよ。」

(小田啓二)

「歩いてきたの？どこから歩いて来たの？」

(ダイアナ)

「亀山からです。」

(小田啓二)

「亀山から歩いてきたの。それは遠いね。」

「おねえさん、下の名前は何と言うの？」

(ダイアナ)

「ダイアナだよ。覚えてね。」

(小田啓二)

「ダイアナっていうんだね。」

名前何と言うの？など苗字を聞かれることに抵抗がある少年がたくさんいます。私は下の名前を聞くようにします。ちなみに私はデュークというニックネームなのですが、自分はデュークというのだけれどもと最初に言って、下の名前は何だったっけ？と聞くのです。2回目、3回目まちで会った時に、相手から声をかけて寄ってきてくれたりします。あるいは「いくつになったの？」「ずいぶん大人になったね。」「大人に見えるね。」などと言うと相手は、「そうかしら。私はもう16歳よ。」とか「17歳よ。」と言ってきたりします。「あれ、手に持っているタバコは何なのかな？」と手を見つめれば、自分で悪いことをしているとわかっているのですから大部分の少年たちは火を消します。何が正しいかと言う前に、相手に届く声かけをしましょう。もう一点だけ私がお願いしたかったのは相手に考えてもらえるように話しかけることです。ルールを押し付けるのではなく、コミュニケーションを図りキャッチボールをしながら本人が、信号を無視することが良いことなのか悪いことなのか、ゴミを散らかすことが良いことなのか悪いことなのかと考えるきっかけを皆様に使っていただきたいと思います。ゴミが散らかっていて、「これはあなた達が出したゴミかな？」と言えば、違いますと言うのが常です。「これ拾って良いかな？」と自分で拾います。「今度からこんなゴミがあったら片付けるのを手伝ってね。そうすると助かるな。」とお願いすれば、わかりましたと言ってくれます。本当は散らかした本人がもしれませんか。考えるきっかけをつくり、自分でルールを守ることが大切だということに気づいてもらえ



れば、安全について、あるいは社会のルールに関しての考え方が変わると思います。皆様と出会う人には、きっかけになるメッセージを伝えていただきたいのです。例えば「近頃この辺りでひったくりが多いから、バッグに気をつけてね。」「後ろから来る人に気をつけて帰るんだよ。」そして、「何かあった時には緑のジャンパーの私達が、オレンジのジャンパーの私達がいますからね。何かあったらいつでも声をかけてくださいね。」というこの一言が効果的なのです。以前、私が札幌の暴走族にそれを言ったところ私の電話番号を教えてほしいと言われました。要は話し相手になってほしかったのです。メッセージとして防犯ニュース、暗い道だと危ないから明るい道とか人通りの多い道を歩いて帰るんだよと伝え、心配している人がこの地域にいるのですと知らせてください。ということで声かけをするという大切さ、3つ目の力を申し上げました。

ここで個人の力をお話してみたいと思います。先ほど防犯ブザーの音を聞いていただきました、学校でも配っています。世田谷区のステッカーもお見せいたしました。しかし教育委員会、学校や親は子どもに与えて正しい使い方を教えているのでしょうか。防犯ブザーを持っている人はいますかと聞くと、ほとんどの子どもが「はい」と答えます。今どこにありますかと聞くと、「家」とか、「ランドセルにつけてる」と言うのです。しかし登下校の時にはランドセルを持ちますが、帰宅したらランドセルを置いて出かけます。いつでも使えるように防犯ブザーの使い方を親や大人が教えていかななくてはなりません。皆様ぜひ学校や教育関係者と連携して子どもたちに教えていただきたいと思います。防犯ブザーは、腰のバンドやベルトの位置か、首からぶら下げるかどちらかで、電池が入っていることも必ず確認してください。私達は電池が切れた場合のために笛を持ち歩いています。笛でも結構です。ランドセルの横に付けている子どもがいますが、とっさのときには手が届かずにすぐに使えません。このようにランドセルの肩ひもに付けている子もいますが、ランドセルとともに家に置きっぱなしでは意味がありませんので、いつも腰とか首からぶら下げ携帯する習慣を付けておきたいのです。防犯ブザーはどのようにして持つのかお見せしましょう。今4人のお友達が学校の授業が終わり下校します。先生さようなら皆様さようならとあいさつして、家の方向にこのようにして帰ってきます。「さよなら。」ダイアナさんが帰りました。これで今、3人になりました。それでは指を折っていきましょう。「カスミ、バイバイ。」2人になりました。ライクとデュークは仲の良いお友達、でもライクとデュークの家は同じではありません。それでは「ライク、バイバイ。またあした。」最後デュークが一人になりました。そこで私は水戸黄門の印籠方式を子どもに教えます。先ほど

まで腰に付けていたブザーを手に持ちます。これがなぜ良いかと言いますと、ちょっといを出そうと狙う不審者が、あの子は防犯ブザーを持っているので警戒するということがあげられます。もうひとつは本人が、ひとりで家に着くまでの距離 100 メートルは気をつけて帰ろうと思うわけです。これで私が何を言いたいのかと言いますと、このようなひったくり予防のネットも配られてはいますし、泥棒に入られないようにするために、窓にドアに補助錠を付けたりといろいろありますが、有効に活用しようとする意識を高く持たなければ何もならないのです。自分が防犯に対する意識を高く持てば狙われにくくなります。私がよく聞かれる質問に、東京で今一番危ない所はどこですか。質問する人は渋谷とか新宿歌舞伎町とか六本木ですと答えを期待しているようですが、私はどこにしようが危険度は同じ、本人次第ですと答えます。その人の意識の持ちようで大きく変わります。置き引きという犯罪があります。たとえばお彼岸にご先祖のお墓参りに行き、墓をきれいに洗ってあげたいと水汲みに行っている最中に置きっぱなしにしたハンドバッグが盗まれる例があります。ちょっとした気の緩みが犯罪を呼んでしまいます。

今では、交通の便が良くなりモーターレーゼーションと言いますか、三重県も名古屋方面から、あるいは奈良や大阪や和歌山方からも繋がっています。これを考えるとどこにでも犯罪が起きうる環境にあるということです。そこで自分達に何ができるのか、良く考えて自分にできることをする、自分にできることをやっていれば自分が被害に遭うこともないと考えていただきたいのです。このような考え方が個人の防犯力であります。先ほど防犯ブザーの話をしてきましたが、これから自分を守る 3 つの方法を簡単にご披露します。個人の防犯力を高めるために、自分が被害にあわないためにできる 3 つの方法です。非常に簡単です。まず 1 つ目です。皆様、手を出してください。自分の前に手を伸ばしてみてください。ご自宅に帰られたらお子様と、学校の先生であれば児童や生徒とやってみてください。近寄ります。離れる練習をしてみてください。タッチされないゲームをしてみてください。後ろには目がありませんから後ろも気にしながらやってみてください。犯罪者は子ども達を最終的には連れて行こうとするのです。余談ですが、科学警察研究所のデータでは小学校児童はだまされて連れて行かれることが多く、例えば「ねえねえ、こっちへおいで。おもしろい動物がいるよ。」「プレステ 3 のソフトがあるよ。おいで、おいで。」なんて誘われればすぐにだまされるのです。中学校の生徒では無理やり連れて行かれる場合が多いそうです。ですから小学校でも中学校でも被害に遭わないために距離をとる練習をします。私が学校に出向いて感じるのは、知らない人に付いて行ってはダメだよと教えているにも

関わらず、同時に人には親切にしましょうとも教えているのです。例えば「ねえねえ、津駅ってどっちにあるのかな。」と道を聞くために人が近寄ってくると、子どもは親切にするべきか無視するべきか混乱してしまいます。親切にすることは大事ですが、人との距離を開けておかななくては危険な目に遭ったら大変です。今、あいさつ運動を多くの方が行っていらっしゃるんですが、あいさつをしているのに知らない人だからといって、不審者だと言われるときがあります。私はあいさつすることはとても良いことです。人に優しくすること、親切にすることも良いことです。しかし距離を開けていましょうと言っています。ぜひこうした練習をしていただきたいのが1つ目です。

2つ目は、普通に歩いていても、時折後ろを振り向いてほしいのです。車を運転される方であれば運転中にバックミラーを見る感覚だと思ってください。歩いていて時折後ろを振り向くだけで相当な犯罪が減ると私は思っています。誰でも背後が心配で仕方がないのですが、背後を守るための行動ができていないのです。何10メートルかおきにキョロッと後ろを見てください。誰もついて来ていないことを確認する、あるいは誰がついて来たとしたら自分の中でしっかりと認識しなければなりません。バックミラーを見るように、自分を守るために後ろを見るのは自分でできることです。

3つ目はこれです。今日この会場に入ったら5ヶ所が目に入りました。緑のライトです。非常口のマークを見ていただきたいのです。非常口のマークにはどのような絵が描いてありますか。皆様も後でやってみてください。このような姿が描かれています。ヨーロッパに行きますと、走る姿勢がさらに前かがみでこのようになっています。ここが逃げ道という意味です。ということはこの非常口のマークを自分の頭の中に記憶しておけば何かがあった時には逃げる、逃げれば自分を守ることができるのだと考えられるようになります。したがって車に連れ込まれたとしても、あるいは力づくで連れて行かれようとしても、逃げればよいのだと冷静に考えられるのです。これを私達は小学校の防犯教室でやります。そうしましたらこの間、実際に連れていかれそうになった子どもから聞いたのですが、相手の力が強くて逃げられそうになかったが非常口を思い出して、「あ、おまわりさんだ！」このように言って難を逃れたのです。昔であれば、「あ、UFOだ！」と言うのと一緒ですよ。逃げることだけを落ち着いて考えれば助かると思います。車に連れ込まれたとしても逃げる隙をつくることを考えれば助かるかもしれない、決してあきらめてはいけません。子どもだけではなく女性も使えます。したがって今日は3点しか申し上げておりませんが、個人でできることはたくさんあり、その力を活かしながら生活していれば、多くの犯罪を

防げるだろうと思います。ぜひとも参考にさせていただければと思います。

終わりに冒頭お約束したビデオをお見せいたしますが、数分間のビデオでガーディアン・エンジェルスメンバーがパトロールをしているスナップ的なビデオでございますから、ポイントをご説明申し上げます。今日お話しした内容のおさらいになりますが、パトロールしているメンバーの視線、目はどこを追いかけているのか、あるいは目線の高さであったりします。どのように歩いているか、相手と同じくらいの人数で接しているなど先ほども言いましたが、いきなり大勢で囲んだりすると相手に威圧感を与えてしまいますので、メンバーの立ち位置をご注目ください。パトロールに出る前に何をするかという説明があまりできませんでした。円陣を組んでいるシーンがございます。ガーディアン・エンジェルスは毎回、活動に出る前に円陣を組むなり整列するなりして、今日の自分の目標、例えばゴミを拾うこととか、10人の少年に声をかけることとかそれぞれの目標を掲げます。これはマンネリ化を防ぎ飽きないで活動を長続きをさせる方法のひとつです。このシーンも少しだけございます。環境を美化する活動もありますし、パトロールではメンバーの距離感もみていただきたいと思います。いろいろと申し上げましたがそれではビデオをご覧になっていただきます。よろしいでしょうか。

～ビデオを上映しながら解説～

先ほども紹介しましたが目線を同じ目線に合わせるとか、あるいは対応している相手が一人であったら一人で会話をするように努めるとか。

これが先ほど申し上げていた円陣を組んで今日の目標を確認し、ルートを確認したり時間を確認したり、共有するというのを毎回やります。そうすることによってはいあいと言いましょか、目標というものが明確になりやる気になるということでもあります。

おそらくこの少年は酔っ払ってそこに座っていたのだらうと思いますが、最初は女性のメンバーが声をかけまして、次にリーダーが近づいたという例だと思われます。必ず後ろを確認するという事です。

お年寄りの方にはできるだけ目線を下に下げてお話をするように努めている例です。

このように地べたに座っている少年達がありますが、斜めの方向からしゃがむと、心を開いてくれる場合があるのです。

これは、環境を美化する清掃活動です。一緒に行なっているのはダンスをしている少年達ですが、ダンスをしている少年達がまちを汚していると言われて以来、掃除を始めたという経緯があります。ぜひともこのような若い人達とも連携をしていただきたいと思いま

す。やりたいと思っている人達は必ずいるはず。たむろしている少年達もぜひ巻き込んでいただきたいのです。

これはピンクビラをはがしています。以前はびっしり貼られていました。気がついたらきれいにします。先ほど円陣を組んで目標を決めて表に出るということを言いましたが、終了後にも円陣を組んでいます。出発をした時の目標が達成できたか確認しあっています。

ということで、今日の要点は気づいたら行動をしていただきたいということです。若い人達もし、関係機関とも連携をしていただきたいこと、自分のまちは自分で守るという自覚を強く持ち、メッセージを発信していただきたいという3点のお話をさせていただきました。またこの後質問等がありましたらお受けいたします。後ほど分科会へお邪魔いたしますが、一旦ここでお話を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

~終了~